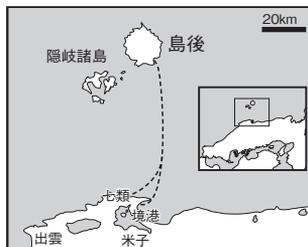


② 島後とうご（島根県隠岐おきの島町）—— 隠岐高等学校

「しまね留学」と「高校魅力化」で 島全体を活性化

島根県立隠岐高等学校 校長 野々村 卓



島後：隠岐諸島の中でもっとも大きな島。かつては沖ノ島と呼ばれていた。平成16年に4町村が合併して隠岐の島町が誕生した。面積241.58km²、周囲211km。人口14,493人（平成28年7月現在）。全域が国立公園に指定されている。

● ジオパークで世界からも注目を浴びる隠岐諸島

島根県立隠岐高等学校（以下、隠岐高校）がある隠岐諸島は島根半島の北方、約八〇キロメートルの日本海に浮かぶ、有人四島と他の一八〇の無人島からなる島々です。もっとも大きな円形の島を島後、西南部の西ノ島、中ノ島、知夫ちぶ里島りじまの三島を島前とうぜんと呼びます。各島と本土の海上交通は、フェリー三隻と高速船一隻で、島根県の七類港、鳥取県の境港と島々を結んでいます。また、隠岐世界ジオパーク空港（島後）と出雲縁結び空港、伊丹空港間に飛行機が就航しています。

隠岐地域は、その地形や生物などの独自性から平成二一年に日本ジオパークに認定され、同二五年には世界ジオパ

ークネットワークに加盟しました。さらに、同二七年に世界ジオパークの活動がユネスコの正式事業となったことにより、隠岐ユネスコ世界ジオパークとして日本国内だけではなく、世界の一員としてのグローバルな視点での活動が求められることとなりました。

● 島の祖父母のもとから通う「グラチルターン」も

隠岐高校は大正二二（一九一三）年の創立、今年度一〇四年目を迎える高校です。「健・智・拓（健やかにして、智を以って、未来を拓く）」を校訓とし、「現在と、未来の隠岐を支える人材を育成」することを教育目標としています。

かつて隠岐の島町の人口は、最大で約二万八〇〇〇人（昭和三〇年）でしたが、今では約一万四〇〇〇人にまで減少、



しまね留学合同説明会の様子。同留学では、現在、県内19校で県外からの生徒の募集が行われている。

孫と暮らす、3年間

本土にお住まいのお孫さんをお持ちの方へ
 私たち隠岐高等学校は、島ならではの環境を活かした学びの場を、島外の方々にぜひ体験していただきたいと感じ、その一環として「グラチルターン」というプロジェクトを立ち上げました。これは、「ランドチルドレン(預)ター」という意味で、本土に住むお孫さんを隠岐に「留学」させる新たな試みです。
 出席率99%を誇る本校で、のびのびとした高校生活を通じ3年間は、お孫さんにとって、かけがえのない人生経験になると考えております。

子供講座で現職中学校の生徒が授業！
 隠岐「グラチルターン」プロジェクト、開始！

じいちゅんからの
 絵葉書は、いつも
 青い海だったから……

広島県から来ました！
 隠岐高校で3年間
 活躍中！

島根県立 隠岐高等学校

〒685-8512 島根県隠岐郡隠岐の島町有木尾寺原1番地
 TEL: (0851)212-1181 FAX: (0851)212-6195
 URL: <http://www.woki-hs.ed.jp/>
 Email: oki-hs@edu.pref.shimane.jp

島外に住む孫を島に呼ぶ「グラチルターン」をすすめるチラシ。島外だけでなく、島に住む祖父母に対しても訴えかけるのが特徴。

学生寮で生活しながら通学する生徒がほとんどですが、町内に住む祖父母などの家から通学している生徒もいます。県外への具体的なPRの方法は、県教育委員会主催の「しまね留学合同説明会」や「しまねUIターンフェア」(広島・大阪・東京)に参加し、中学生や保護者の方と直接面談したり、学校のホームページで案内するなどです。それ以外にも、県外に住むランドチャイルド(孫)を隠岐高校に入学させること(通称「グラチルターン」)を勧めるパンフレットを作成し、島内外に配布し

それにともなつて小・中学生の数も減っておりま。今年度の隠岐高校の入学定員は、普通科六〇名(三〇名二クラス)、商業科三〇名(三〇名一クラス)の合計九〇名ですが、近年は八〇名弱の入学者数で推移しています。

今後、生徒数がさらに減少し学級減が進めば、教員数も減り、勉強や部活動などの生徒の教育環境が、著しく悪化する恐れがあります。そこで隠岐高校と隠岐の島町役場をはじめ関係団体が連携して、高校の魅力増進と活力ある学

校づくりを実現し、入学生の増加を目指すため、平成三三年度に「隠岐高校魅力アッププロジェクト推進協議会」をつくり、翌年度から県の事業である「離島・中山間地域の高校の魅力化・活性化事業」の取り組みに参加しました。そして島内生徒だけではなく、生徒の募集を全国に広げた「しまね留学」も同時に開始しました。同二四年度からの留学生は累計で一一名となります。

県外からの入学生の定員は、来年度は全体の定員の二〇パーセント(普通科六名、商業科三名)と

ています。

本校に興味を持っていただいた生徒や保護者の皆さんには、必ず来島して学校を見に来てもらうようにしています。島の雰囲気や在校生の雰囲気を知ってもらうことで、入学してからのミスマッチを最小限にするためです。しかし、離島にある本校に来られることは保護者の方々の経済的負担が大きいのも事実です。そこで隠岐の島町では、学校見学者の親子それぞれに対し最大一百万円の旅費の補助を行っています。この補助のおかげで、県外生の学校見学が大幅に増加しました。また、寮に入った生徒には、隠岐の島町から毎月五〇〇〇円の補助もあり、これはグラチルターンで祖父母宅から通学する場合も同様です。

●四つの柱による「高校魅力化」

魅力化事業は、「学力向上」「キャリア教育」「隠岐ジオパーク世界発信事業」「部活動の活性化」の四つを柱にしています。

本校では九〇パーセント近い生徒が進学し、そのうち普通科生の三〇パーセント前後が国立公立大学に進みます。このような生徒たちの「学力向上」に関しては、徹底した少人数指導や添削指導のほか、自習教材として有名予備校のDVD教材を町の補助で購入し、生徒に低価格で利用させるなどの工夫をしています。また、教員も生徒たちが主体

的・対話的で深い学びに取り組めるよう、授業の工夫を重ねています。

「キャリア教育」としては、校内の進路講演会や学部学科の進路ガイダンスのほか、本土の大学や専門学校、企業を訪れる一泊二日の見学会を二年生で実施しています。それに加え

て、町が主催する島内の五〇社以上の企業や官公庁などが参加するジョブフェアにも参加しています。生徒たちは島内企業のプレゼンテーションを直接聞き、高校卒業後、または島外に進学した後の就職の参考にしています。

「隠岐ジオパーク世界発信事業」では、総合的な学習の時間で、地域課題解決型の学習である「隠岐ジオパーク研究」に一年間取り組んでいます。生徒たちがフィールドワークを行って地域の課題を発見し、その解決策をグループごと



DVD教材を活用して学力向上を目指す。卒業後、9割近くの生徒が進学する。



キャリア教育の一環として実施した医療体験。



オーストラリアのマッキロップ校と提携した交換留学では、「隠岐ジオパーク研究」の提案内容の発表や英語研修を行う。

に協働で考え、学校の内外に提案します。生徒たちには、課題を発見する力やグループで協働して解決策を考える力、情報発信する力を身につけるとともに、地域へ貢献する意欲や地域に対する愛着を持ち、現在と未来の隠岐を支える人材になってほしいと考えています。さらに本校ではオーストラリアのマッキロップ校と提携して一年おきに希望する生徒が互いに交流しています。そこでは「隠岐ジオパーク研究」の提案内容の発表や英語研修を行っています。

「部活動の活性化」としては、運動部や吹奏楽部が中高合同で指導者を招いて練習会を、写真部が地域の「隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会」と連携した活動をそれぞれ行っています。

● 高校と地域をつなぐコーディネーター

本校がしまね留学や魅力化を進める上で、大きな役割を果たしているのが「高校魅力化コーディネーター」です。

本校では平成二七年度から、町の子算で一名配置されています。「しまね留学」の説明会には、必ずコーディネーターが参加し、中学生や保護者へのプレゼンテーションや面談を行っています。

また、魅力化においては、コーディネーターが学校と地域と行政をつなぐ中心的な役割を果たしています。特に「隠岐ジオパーク研究」でワールドワークや成果報告会を行うには、地域の方々とのつながりは欠かせません。成果報告会に地域や関係機関の方々に参加してもらい、多くのアドバイスをいただくことで生徒



隠岐ユネスコ世界ジオパークとして認定された自分たちの島について学ぶ。

の学習が深まります。同時に、地域の皆さんにも隠岐高校の活動を広く知っていただくことができます。今年度は生徒たちの提案のうち四つが、実際に地域の方々に採用されました。生徒たち、地域の方々ともに大変喜んでいました。

●保小中高の連携で島全体の教育魅力化を

県外から生徒が入学することは、今まで狭い人間関係の中で暮らしてきた地元の生徒にとって、新しい刺激となり、彼らの視野や考え方の広がりにつながっています。

県外から入学した生徒の中には、「隠岐に来て元気がなくなった」「言葉遣いが丁寧になった」など、自分自身が変わってきたと話す生徒がいます。運動部でレギ

ユラーとして活躍している生徒もいれば、隠岐ならではの釣りに深く興味を持つ生徒もいます。県外から来た生徒たちの多くは、隠岐の環境に慣れ、高校生活にきちんと取り組み、日々たくましく成長しています。今後も、この隠岐高校で頑張りたいという県外からの入学生を増やしていきたいと考えています。

以前から、将来は隠岐に不足している医師や看護師になって地域を支えたいと考える生徒は多くいましたが、最近では高校の魅力化のさまざまな取り組みをはじめとする隠岐の島町の活性化そのものについて、大学で学びたいと考える生徒が増えてきています。

今後も県や町の支援のもと、学校の魅力化に努めたいと考えています。その際、在学する生徒たちや地域の方々にとって何が真の魅力化なのか、ということをつねに念頭に置いて取り組んでいきたいと思っています。また、高校の魅力化に留まらず、保育園、小・中学校などと連携した隠岐の島町全体の教育の魅力化も視野に入れていきます。地域の方々や町役場、隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会などの関係機関の皆さんと協力し、教育の魅力化を隠岐の活性化の一助としていきたいと考えています。

野々村 卓（ののむらたく）

昭和35年生まれ。島根県松江市出身。大学卒業後、県内の高等学校で教諭・教頭として勤務。平成27年4月より現職。「隠岐高校魅力アッププロジェクト推進協議会」副会長。

◆課題先端地に県外の生徒を呼び込む「しまね留学」◆

■しまね留学の背景

しまね留学とは県外に住んでいる意欲ある中学生が、島根県の高校を受検、入学し、島根県で充実した高校3年間を送ることをいいます。こうした積極的な県外生徒募集の取り組みは、平成22年度に始まりました。

保育園、小中学校とほぼ同じ顔ぶれで過ごすような、狭いコミュニティーの中で育ってきた地元の生徒にとって、県外の生徒は、新しい多様な文化・価値観を運んでくれるとともに、適度な刺激や競争を生み出してくれる存在です。そんな県外の生徒と過ごすことは、ふるさとの新たな価値の気づきにもつながります。また、生徒が増えることにより部活動や行事など学校の活性化も図られます。

他方、県外の生徒にとっても、島根県の高校で学ぶことは、都会には到底ない豊かな自然のなかで、さまざまな体験ができる貴重な経験となります。そして、その中で、多様な大人と触れ合うことで、公共の精神や愛郷心を身に付けていくことができます。また、学校や地域の選択肢が増えるため、大都市圏への人口一極集中の是正にもつながっていくと考えています。

■しまね留学の現在

平成22年に8校から始まったこの取り組みは、現在19校まで広がりました。県外からの入学生も平成22年度の54名

から、同28年度は184名と3倍以上に増加しました。

しまね留学の魅力とは、「過疎」という言葉が生まれた島根県だからこそその超少人数教育で、一人ひとりの夢や思いを大切にできる教育ができることです。そして、課題の最先端地域のリアルな地域密着の課題解決型学習を通して、思考力、判断力、表現力などの21世紀型スキルを身に付けることができることも魅力です。また、不便なところも多い寮生活ゆえに、学習や部活動に集中でき、自立・協働・粘り強さが培われます。

■しまね留学のこれから

7年におよぶ取り組みの中で、県外の生徒ながら生徒会長として学校を引っ張る生徒や、高校卒業後も引き続き島根県内の大学で学ぶ生徒、将来の進路選択として「育った地域への恩返し」「将来島根に帰ってくることを挙げる生徒が生まれてきました。そして、地域への新しい人の流れを生み出しています。

今後は、さらに多くの方に高校選びの新しい選択肢として「しまね留学」があることを知っていただきたいと考えています。たくさんの方が「自分らしい進路を選択」し、受け入れる地域・学校にとっても、生徒にとっても、送り出す親にとっても、価値のある「しまね留学」を目指していきたいと思っています。

(島根県教育庁教育指導課地域教育推進室 教育魅力化支援員 宇野由里絵)